

1 『幼なじみとキス練習をしてたら本気になつてどうマリしそう』 ASMR 脚本

◆登場人物

- 2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
- 千夏（ちなつ）
 - ・ 隣の家に住む主人公の幼馴染。
 - ・ いつも笑顔で明るい女の子で、友達も多い。
 - ・ 主人公とは幼い頃から家族ぐるみで付き合いがあるため、よく一緒に遊んでいる。
 - ・ 今でも主人公の部屋に遊びに来る程で。距離感がかなり近く、無防備。
 - ・ クラスの男子からも人気はあるが、主人公との仲を見せつけられて、全員告白する前に諦めている。
 - ・ 主人公に対して恋愛感情を自覚していなかったが、キス練習を通じて自身の気持ちを自覚することに…

【幼なじみとキス練習をしてたら本気になっちゃうマジシャン】

1.ただの練習（キス→ディープキス）

※季節は夏の昼頃を想定しています。

15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56

場所 .. 主人公の部屋

- ・主人公の部屋に遊びに来た千夏。
- ・扇風機に当たり、涼む千夏。

SE:扇風機の音

・千夏、扇風機の風に声を当てる。

「あ~~~~」

・千夏、満足そうに。

「はあ～やつぱりあなたの部屋はいいわ～。涼しくて快適～」

・涼むなら自分の家で涼めと少し冷めた様子の主人公。

「そんな嫌そ～な顔しないでよお」

「手っ取り早く涼むなら、この部屋が1番なんだって」

「それに、今日はちゃんと用事があつて來たんだから」

・千夏、立ち上がってあなたの側に近づく。

SE:千夏が近づいてくる足音

・間

「えっとね、質問っていうか？ 相談っていうか？ お願い的な？ そんな感じ！」

・千夏、軽い調子で。

「わふわふキスの練習手伝ってくれない？」

(6)接

(8)接

(6)接

(6)近

(7)近

(8)近

- ・主人公、千夏の間に驚き。
- ・間

・千夏、その様子がおかしくて笑う。

「あっはは！ 何照れでんのよ～！ この恥ずかしがり屋さんめ～」

「いやね、最近友達がさ、彼氏とキスしたとかの話ですごい盛り上がり上がってるんだけどね。あたしつつてそういう経験ないから話についていけなくて困ってるの」

「そんなわけだからさ！ 可愛い幼なじみを助けると思って協力してよ！」

- ・主人公、本当にキスの相手が自分でいいのか的な確認。
- ・間

「そ、それは……あれよ。あなたじゃないと……
じゃなくて、あなた意外に頼める人いないから」

「それで、やつてくれないの？」

- ・主人公、千夏の練習に付き合ふと回答。
- ・間

「さつすが！ あなたならそう答えてくれるって信じてたー。」

「それじゃあ～。早速やつてみよう！」

・千夏、キスをするために主人公と顔の位置を合わせようとする。

「位置は……こらへんかなあ？」

「あ、もうちょっと屈んでくれると嬉しいかも？」

「オッケー。それじゃあ……い、いくよ」

- ・主人公、キスを目前に顔を背ける。

「あ、ちょっとなんで顔背けようとするの?
て、照れることないでしょ。ちゃんとこっち見て！」

「そう……そのまま……。」

99 動かないでよ? よし! それじゃあ、今度こそ…す''
100
101

・主人公にキスをする千夏。

「ふう…ふ、ちゅ…」

・間

「……ふ…あ…」

「あ…えつと…なるほどなるほど、こ、こんな感じなのね?
結構ドキドキするって聞いたんだけど」

「へん。 もう1回、試させてね?」

・主人公に長めにキスをする千夏。

「ちゅ…ちゅ…ちゅ…ん、ちゅ、ちゅう…ちゅ、ん、ふ、あ…あ…あ…」

「ちゅーっ、ふう」

「んん…なんとなくわかつてきたかも。
たくさんするし、ドキドキ感が増す気がする!」

「……ねえ、今度はあなたから、してくれない?」

「…ねえ、今までのよよく聞く…」

「…のは彼氏からってのもよく聞く…。
ね! お願い!」

・千夏、あなたの顔の前に顔を突き出し

・間

「…の位置ならやりやすいでしょ、あなたのタイミングで、ね?」

・あなたから長めにキス

「ふ…ふ…。ちゅ、ふ…ちゅ、ちゅ、ちゅ…」

「ん…、ちゅ…ちゅう…、ちゅる…ん、ちゅ…」

「ん…、ちゅ…ちゅ…ちゅう…ちゅう…」

・千夏、あなたのキスがうまくて驚き。

「ん…ん…、は…」

⑤近

⑥接

141

「それに、自分でするよりも、良かつたかも……」

145 もう1回ギアして? れえ…もう1回

〔46〕
⑥接
「んつ、んんつ…ちゅつ、ちゅつ、ちゅうつ！　ちゅうううつ！」

148
んちゅい、ちゅうい、ちゅうい……ちゅうい！ あつ

150

151

153

一五四
んつ……はむ
ちゆ……んんつ……ちゆつ
んつ……んぶつ……ちゆつ……ちゆつはぶつ
ん……

156

158

・千夏、いつの間にかキスのハマつており、動搖

161

一九三
中
あ、ははは、なるいとれ、これがヨノヨノか？

164

166
あっはは！
そんなに気持ち良かつたの？
おかしい〜！

198
1988

169

「え？ あたしも…？ うそ？ …、別にそんなことはないと思うナジーなー？」

172 171

174

176

「ん？…！」 ふつ、 んんつ！ ちゅつ！ だ、 だめ…んつ！ だめだつてえつ！

あつ……本当に……だめええ……んんつ……ちゅつ、ふあつ……んんつ！

卷之三

182

183	(⑥近	
184	「あ…ん…ん…ん…ん…ん…は…ん…は…ん…」	
185	「は…は…は…急にするのは…反則だよお」	
186	・主人公とのキスの虜に	
187	(ややややや)	
188	「舌を絡めてある、とつてめ気持ちいいキスがしこんだかん…」	
189	(ややややや)	
190	「ね? しで…?」	
191	・ディープキス、開始	
192	「ん…、ちゅ…、ちゅ…、あむ…、ちゅりゅ…れろ…ちゅ…	
193	んあ…れら…じゅ…じゅちゅ…んじゅりゅ…れろれろ…	
194	あむ…れろれろれりゅ…んちゅ…じゅりゅ…んちゅ…わざ…」	
195		
196		
197		
198		
199		
200		
201		
202		
203		
204		
205		
206		
207		
208		
209		
210		
211		
212		
213		
214		
215		
216		
217		
218		
219		
220		
221		
222		
223		
224		

「やば…今の…本当に…私…キスだけ…つか…やうん…ん…
だ、ダメッ、いやち…見ないで…んん…」

225

226

227

228

「はあ…はあ…はあ…んん…はあ…はあ…やう…ん…ん…
はあ…やう…やう…」

229

・千夏、絶頂の余韻が恥ずかしく、主人公から顔を背ける

230

「あ…はは…は…ん…は…ん…は…は…は…は…は…は…
は…は…は…は…は…は…は…は…は…は…は…は…は…」

231

232

④接

233

・千夏、顔を上げ

234

⑥近

235

「あ…はは…い…めんね。ずつとキスしてたから、息止がつちゃつた」

236

・千夏、息を整えて。

237

⑥近

238

・千夏、顔を上げ

239

「やう…は…や…」

240

「やう…ありがとう。あなたの陰で、キスの魅力…わかつた気がするよ」

241

「だから…さ。あの…あなたが良かつたらなんだけじ…またキスの練習…

242

付き合つてくれない?」

243

・主人公、千夏のお願いに了承。

244

245

・間

246

247

248

249

250

・千夏、不意打ち気味に主人公にキス

251

※感じながら

252

253

「やう…や…ん…は…は…は…は…は…は…は…は…は…は…

254

れ…り…り…り…れ…れ…は…は…れ…じ…り…り…ん…ん…は…は…

255

ん…れ…り…り…れ…れ…れ…れ…れ…れ…れ…れ…れ…れ…

256

れ…れ…れ…ん…じ…れ…れ…れ…れ…れ…れ…れ…れ…れ…

257

ん…じ…り…り…れ…れ…れ…れ…れ…れ…れ…れ…れ…

258

ん…じ…り…り…れ…れ…れ…れ…れ…れ…れ…れ…

259

・千夏、軽くイキながら

260

「は…は…は…は…は…は…は…は…は…は…は…は…は…は…

261

練習…やせいで…ね~」

262

・幼なじみとキス練習をしてたら本気になつてどうやっしゃる END

263

264

265

⑥接